



水戸も交通まちづくりが必要

- 南町、泉町の商店街は今のままでよいか
- 拡散した街からコンパクトな街にできないか
- 水戸市も中心市街地の活性化を「水戸元気プラン」として掲げているか・・・

「人々が集い、にぎわう環境の創出に向け、子供から高齢者までの多世代が交流する拠点の形成等を推進します。」（水戸元気プラン各論：計画）



交通まちづくりの核としてのLRTの可能性

- 南町、泉町、大工町という中心市街地を再活性化を促し、
- 偕楽園や水戸芸術館を初めする水戸市の潜在力を引き出すためのツールとして活用でき、結果的には、
- 経済面、文化面、両面における水戸市の発展とくらしを支えることが期待できる。



水戸にLRTを走らせたとなると

- LRTの停留所、車両デザインなどは、芸術性の高い水戸在住のアーティスト、市民の声を反映させることで、水戸のシンボルとなることも期待
- 軌道を芝生にすれば、街のイメージも一新
- たとえば、南町の50号線沿いの架線をアーチにしてしまうなど（フランスのミュールーズ市ではLRTが街のランドマークに）。



水戸は路面電車がかった

- 宇都宮市と違い、水戸市には昭和40年
まで路面電車が存在
 - 茨城交通水浜線
(茨大) - 上水戸 - 水戸駅 - 大洗

水浜線(水戸駅前)



1959年 鈴木達夫氏撮影

水浜線(一高下～東柵町)



1960年 鈴木達夫氏撮影

水浜線 (郵便局前)

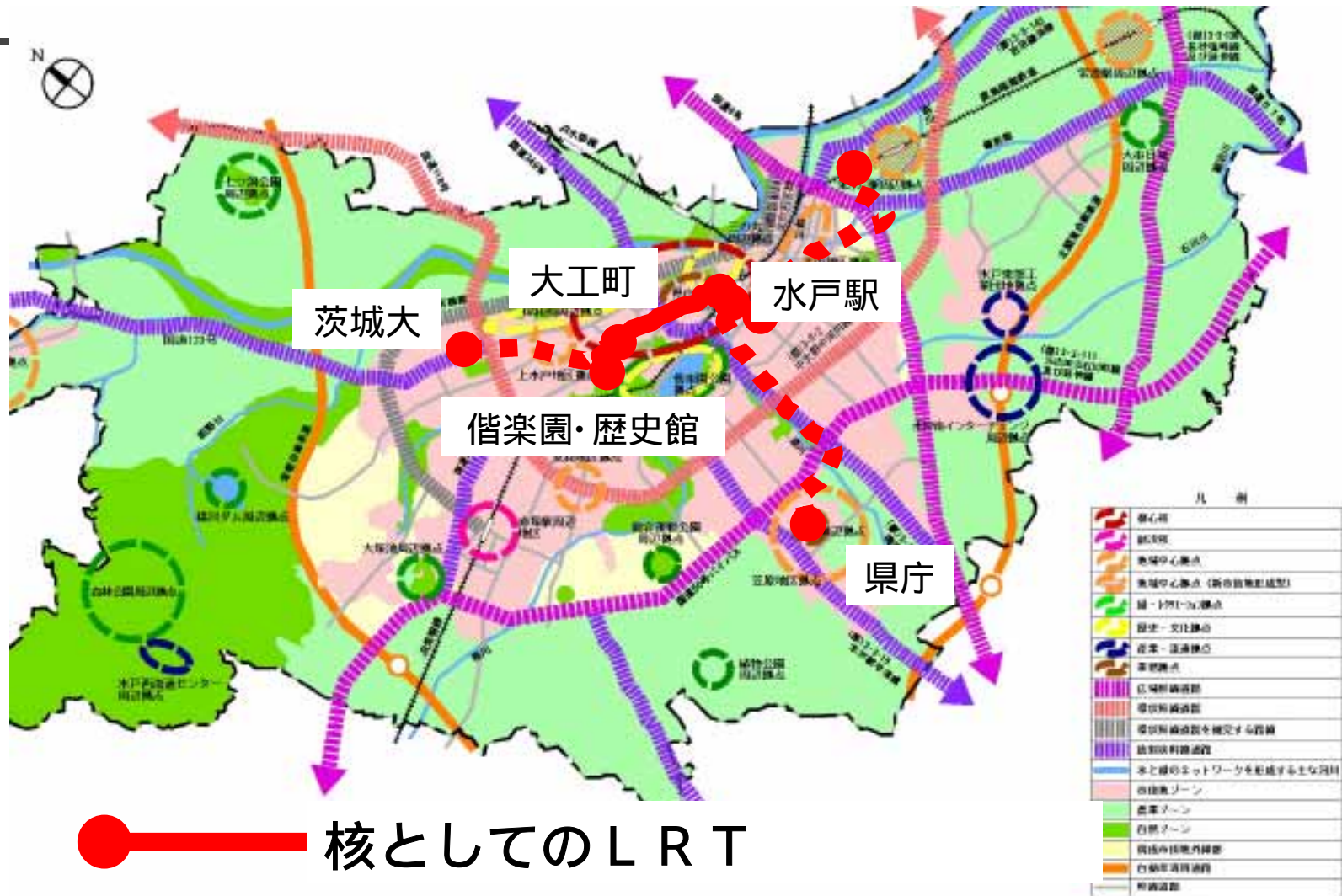


まちづくりの核としてLRTの可能性

- 一つの案として水戸駅前から大工町の2キロ強をまず第1フェーズとして建設。
- その後、茨城大学方面、歴史館・偕楽園、茨城県庁、下市方面などへの路線拡大により、より広範囲な利用客のニーズを取り込む。
- 水郡線を使った日本発のトラムトレインを運行すればネットワークはさらに拡大
- コミュニティ・バスとホームで接続して、むしろ公共交通のネットワークを拡大



考えられる水戸の交通まちづくり



泉町のLRTイメージ(1)



京成百貨店前

泉町のLRTイメージ(2)

